

平成 21 年 11 月 19 日

長岡市教育委員会（定例会）会議録

長岡市教育委員会



1 日 時 平成 21 年 11 月 19 日 (木曜日)

午後 3 時から午後 4 時 30 分まで

2 場 所 山古志支所 301 会議室

3 出席委員

委員長 大橋 岑生 委 員 内藤 博子 委 員 中村 美和

教育長 加藤 孝博

4 職務のため出席した者

教育部長 野口 正巳 教育総務課長 押見 康雄

学務課長 武樋 正隆 学校教育課長 腮尾 理

子ども家庭課長 矢沢 康子 保育課長 若月 和浩

中央公民館長 葦沢 豊 中央図書館長 小野田 信子

科学博物館 山屋 茂人 教育センター所長 山岸 文夫

学校教育課主幹管理主事 星野 和人 学校教育課主幹兼管理主事 島倉 昭弘

5 事務のため出席した者

教育総務課長補佐 長谷川 雅泰 教育総務課庶務係長 新沢 達史

教育総務課庶務係 小川 瑞穂

## 6 議事日程

日程	議案番号	案 件
1	第 56 号	会議録署名委員について
2		補正予算の要求について

## 7 会議の経過

(大橋委員長) これより教育委員会 11 月定例会を開会する。日程に入る前に、本日は都合により羽賀委員から欠席の旨の通知があったので報告する。なお、これにより、本日の委員の出席は 4 名となるが、教育委員会会議規則第 6 条の規定の過半数の出席を満たしており、会議は成立することを報告する。

---

### 日程第 1 会議録署名委員について

(大橋委員長) 日程第 1 会議録署名委員の指名を行う。会議録署名委員については、会議規則第 44 条第 2 項の規定により、内藤委員及び中村委員を指名する。

---

### 日程第 2 議案第 56 号 補正予算の要求について

(大橋委員長) 日程第 3 議案第 56 号 補正予算の要求について を議題とする。事務局の説明を求める。

(押見教育総務課長) 教育委員会全体では、歳入補正要求額は 26,468 千円、歳出補正要求額は 106,350 千円である。教育総務課分を説明する。歳出補正要求額は 7,114 千円である。学校施設整備費 6,900 千円のうち与板小学校教室改造工事実施設計委託として 60 万円。これは、言語障害に関する通級指導を要する児童が急増しており、既存の言語通級教室では十分な指導ができなくなってきたため、県に新設要望を行ったところ、認めていただく予定となった。そのため与板小学校の 1 つの教室を言語障害通級として整備するため設計を委託するものである。続いて関原小学校教室改造工事は 6,300 千円である。来年度関原小学校は 2 クラス分の教室が不足することが新たに見込まれた。特別教室を普通教室に改造するとともに、特別教室の代替を設置する

ためのものである。次に日越小学校校舎等整備事業費 214 千円である。現在日越小学校では校舎改築工事を実施している。この工事に伴い既存のグラウンドが狭くなるため、新たな場所に土地を求め、新しいグラウンドを整備したいと考えている。今回の補正は買収する土地の分筆が必要なことから、用地買収担当課と協議の結果、分筆登記に添付する書類は今年度中に教育総務課で準備をすることとなり、土地家屋調査士に委託をすることとなったものである。

(矢沢子ども家庭課長) まず歳出から説明する。まず、返還金である。昨年度実施した児童デイサービス事業と予防接種事故対策の負担であるが、先に国や県から補助金をもらい事業を行っており、20 年度の事業が完了したこの時期に余ったものを返還するものである。次に、児童福祉施設費であるが、「てくてく」に次ぐ子育ての駅として市民防災センターに 1ヶ所、ちびっこ広場を移転し、もう 1ヶ所準備をしている。それに伴う備品やロゴマークの作成等の整備等の準備費として 12,996 千円を要求。これに伴い児童福祉費補助金として 90 万円を除く 23,076 千円については、県の安心こども基金から補助金が出る。県の安心こども基金は、先の政権で 20 年度の 2 次補正で経済対策の一環として都道府県ごとに子育てに関する基金が作られ、新潟県に 32 億円の基金が設置されており、その中で地域子育て創生事業というメニューについてはすべて全額基金から助成されることとなっている。ただし、基金の対象とならないのは消耗品で、歳出と歳入の差の 90 万円は消耗品である。歳出の 3 つめ、妊婦健康診査費委託料の 41,993 千円である。妊婦健診は今年の 1 月 27 日からこれまでの 5 回の助成を 14 回に引き上げた。当初も 6,000 万円の補正を組んだが、あと約 4,000 万円足りないため補正要求を行う。それに伴い歳入として 12,860 千円が補助金として国から入る。これは 5 回から 14 回の差の 9 回分に当たる分の 2 分の 1 が補助金の対象となる。最後に予防費の予防接種事業費として 32,861 千円の不足が生じているため補正要求を行う。麻しん、風疹混合ワクチン、はしかの予防接種については、1 歳、年長時、新たに中 1、高 3 に実施しているが、接種率が高いため接種分、また日本脳炎について、接種見合わせの中であるが、希望する親の増加や新しいワクチンの開発もあり不足分が見込まれるため要求する。

(若月保育課長) まず歳出であるが、最初に国等の返還金である。これは会計検査院の指摘により返還を行う。市が補助金として支払う私立保育園運営費の半分を県、

国から補助金としてもらっており、あわせて返還することとなり、合計額が4,050千円となる。次に保育所施設整備費として、みしま北保育園について給水管が古くなり、赤水がでることからこれを整備するために701千円を要求するもの。次に、白山保育園移転改築事業費として1,261千円を要求する。白山保育園は昭和54年9月に建設された平屋鉄骨造りである。白山保育園北部の宅地造成に伴い児童の増加が見込まれる。そこで、宅地造成の北側に新たに土地を求め、移転改築を行うため、今年度測量を行う。公園と隣り合わせとなり、つきあたりの部分に保育園ができることとなり立地的にもいい場所であるため、買い求めたい。事業計画として25年度の開園を目指している。最後に、幼児教育補助事業費であるが、昨今の経済状況の悪化に伴い、就園奨励費の申請が当初よりも増加している。就園費助成金は就園奨励費に加え、市で上乗せして支払っているため、同時に補正を行う。運営費及び施設整備費について使わない見込みが生じたため、差し引きし、全体で2,360千円を要求する。それに伴い国からの補助、2,360千円の2分の1の歳入がある。

(山屋科学博物館長) 旧長谷川家住宅管理運営費である。このたび消火栓の点検を行ったところ、消火栓のホースに不具合が見つかり、文化財であるため急遽補正要求を行うものである。悠久山小動物園だが、クマの飼育室のドアが劣化してきたため、補強工事を行う。クロトキを飼っている関係もあり、これから繁殖期に入るため、春先に工事ができないため、今の時期の補正要求となる。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(大橋委員長) 白山保育園について、宅地造成の北部を購入し、測量を行うための補正ということでよいか。

(若月保育課長) そうである。できるだけ早く作りたいと考えており、事業日程の都合もありこの時期に補正要求を行う。

(加藤教育長) 22年度に基本設計を行うが、学校では和島小学校、東中学校ができ、宮内中学校については、現在とりかかっているが、保育園を新たに建てるにあたり、いままでと違う園としたいなどの提案はあるのか。

(若月保育課長) 今のところはない。

(加藤教育長) 今までどおりの園を立てるという考えではなく、ぜひ子育てに必要な部分を設計に生かしてほしい。また国、県の返還についてもう少し詳しい説明をお

願いたい。

(若月保育課長) 私立保育園に対して支払っている運営費がある。運営費は、国から2分の1、県から4分の1、市から4分の1を負担している。その算定をするにあたり、園児の保育料が基礎となる。保育料については、生計を一にする世帯の所得税によっており、世帯の所得税を合算して保育料が決定するが、従来は原則住民票の世帯を見てきた。会計検査院は、住民票を別にしている同一住所に祖父母がいる場合、生計は一であると判断し、祖父母分も加算すべきとの指摘であった。その結果、支払いすぎている部分があるとの指摘であった。従来は住民票の世帯を見ており、厚生労働省からもそのような指導があり算定を行っていたが、会計検査院と厚生労働省の協議の結果、会計検査院の指摘のとおり算定するとの話であり、再計算し返還を行う。実際にとっている保育料ではなく、厚生労働省の定めた表で算出するため、親の負担増にはならない。

(加藤教育長) 科学博物館の旧長谷川家住宅の消防設備交換について、これは災害復旧の対象には入っていなかったのか。

(山屋科学博物館長) 入っていなかった。

(加藤教育長) 二度の震災で被害を受け、多大な金額をかけ、復旧、復興をしてオープンしたわけだが、すべて確認した上でオープンしたわけではないのか。

(山屋科学博物館長) 今回、この時期に調査があり、消防設備の確認を行ったところ、ホースの劣化の指摘があった。

(内藤委員) 子ども家庭課の予防接種事故対策費負担金の返金は、事故がないための返金なのか。

(矢沢子ども家庭課長) 新たな事故はなかったが、予防接種の救済措置を受けている方が、市内に3人いる。1人は障害年金として受給されており、あとの2人は医療手当てとして、医療費に見合う交付を受けている。予定したものよりも医者に行く回数が減れば、交付する額も減るため返金する。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) ないようなので、これより採決に移る。本件は原案のとおり決定することに異議ないか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

(大橋委員長) 異議なしと認める。よって本件は原案のとおり決定した。

---

(大橋委員長) 本日の日程は終了する。次に協議報告に入る。平成 22 年度の新規事業についてであるが、全部で 8 つの課や施設からあるので、2 つに区切って協議を行う。事務局から説明を求める。

(押見教育総務課長) 教育総務課は 2 点ある。特別支援教育の充実のために、養護学校建設事業である。高等部を中心に、平成 24 年度から教室不足が見込まれている。現在のグラウンドの場所に校舎を増築したいため、設計を進めている。新年度の予算要求に 22 年度、23 年度の継続事業として校舎増築の予算を要求し、24 年度の供用開始を目指したいものである。2 点目は、学校施設における安全性の確保として、宮内中学校の校舎等改築事業である。現在の校舎、屋内運動場が全般的に老朽化してきており、現在のグラウンドの場所に校舎、屋内運動場を全面的に改築するため、現在、設計を進めている。新年度に 22 年度、23 年度の継続事業として校舎、屋内運動場の整備を行い、24 年度の供用開始を目指したいものである。

(武樋学務課長) 1 点目、学校給食検討会議経費である。これは 9 月の定例会で学校給食検討会議設置要綱を議題とし、制定し、すでに 11 月 16 日に 1 回目の会議を実施した。来年度も引き続き実施するための必要経費を要求するものである。2 点目、小中学校規模適正化検討事業費である。これは、学校の規模や効果的な配置を、昨年度と今年度と通学区域審議会に部会を設置し、意見をいただいているところである。部会の意見を踏まえ、来年度、委員構成を拡大し、適正規模、統廃合の検討対象校について検討するための審議会を設置したいものである。

(腮尾学校教育課長) 郷土長岡を語る「長岡学」(仮称)作成・配布事業である。内容は、長岡で育った子どもに郷土愛をはぐくむために、歴史、産業、まつり、偉人など、これだけは知っていてほしいというものをまとめた教材をもたせたい。合併が一段落するこの時期に、郷土長岡を誇りに思い、自信を持って長岡を語るができる子どもを育てるため、常に傍らに置いて活用できる冊子「長岡学」を作成し、学校関係者を中心に編集委員会を組織し、22 年度から 2 年継続事業で作成したいもの。

配布対象は、小学校5年生から中学校3年生までと考えている。

(矢沢子ども家庭課長) 3つの事業がある。1つ目は、母子保健の推進としておめでとう誕生日訪問事業を始めたいものである。こんにちは赤ちゃん訪問として生後4か月の親子の訪問を始めて2年になる。こんにちは赤ちゃん訪問と1歳6か月健診との間の1歳という節目の時期に訪問し、子育ての情報や親子のふれあいなど母子保健推進員を中心に提供するものである。このときには、誕生日カードのほか、子育ての駅の情報や、親子サークルの情報など1歳になったときに役立つ情報を持っていき、様子を見に行く。2つ目は、妊婦歯科検診事業である。妊婦検診については、14回の助成を行っているが、歯科検診は含まれていない。母子健康手帳を交付してから出産までに、歯の健康状態を確認し、しかるべき治療をする中で、丈夫な赤ちゃんを産み、家族の歯科保健に対する意識を高めてほしいため実施するものである。だいたい、1回あたり2,000円の健診委託料を支払う形で考えている。3つ目は、子育ての駅の運営事業である。来年度新たに2か所の子育ての駅のオープンを考えている。まず一つ目は市民防災センターである。オープンを来年5月ゴールデンウィークに考えている。基本的には「てくてく」と同じ機能を持つが、ここにしかないものが、食育のできるミニキッチンユニットと工作コーナーである。親子でものづくりができる環境を整備する。規模的には、「てくてく」の中の「 」にあたる部分である。もうひとつは全天候型の運動広場があり、屋外一体的になり、靴を履いたままで遊ぶ施設であり、25mのスライダーが目玉である。2階建ての建物だが、全体は防災センターであり、いざというときには、子育ての駅は、防災ボランティアの休憩所になる構想である。2階には防災展示室等があり、日ごろから防災学習ができる。防災センター子育ての駅について、愛称を市民投票で行うこととした。12月1日から「てくてく」や「ちびっこ広場」、健康センターで投票を行う。1つ目は「ぐんぐん」、2つ目は「げんきーず」、3つ目は「あつ<sup>まる</sup>」、4つ目は「いこいこ」である。この4つから決定したい。

もうひとつの子育ての駅は、現在のちびっこ広場が移転をし、再開発ビルの2、3階にできる。ここのオープンは来年7月末、長岡まつりあたりと考えている。ちびっこ広場が移転し、広くなるため、まちなか絵本館として絵本もたくさん設置する。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(大橋委員長) 郷土長岡を語る「長岡学」について、素晴らしい企画である。これ

は、いわゆる中核となるねらいはなにか。米百俵の精神を受け継ぐ内容になるのか、合併後、地域の広がりを中心とするのか、いかがなものか。

（腮尾学校教育課長） これから編集委員会によって固まっていくところである。米百俵の精神についてもでてくると思うし、歴史、産業などのくくりでの編集方法もある。今はまだ白紙である。

（大橋委員長） 「長岡学」という、米百俵の精神を子どもの時から位置づけるものになるというような腹案が決まっていると思っていた。今まで子どもたちに渡していた「わたしたちのまち長岡」という副読本もあるが、それと同じにならないよう検討してほしい。

（加藤教育長） 5年生から中学3年生まで配布予定としているが、できれば合併町村は関東で会を開くことがある。そういった時に配れる余裕があるようにしてほしい。親が長岡出身で、子どもたちが長岡を知らないこともあるだろう。先人が作ったすばらしい書物もあるが、長岡の子どもが県外に行ったときに、自信を持って語れるようなものにしてほしい。本棚に飾るような立派なものではなく、ハンドバックに入るような冊子を考えている。

（大橋委員長） 小中学校規模適正化検討事業について、今年度話題になってきている。これからスタートし継続すると思うが、ぜひ進め方について、配慮願いたい。

（武樋学務課長） ある程度の基準は作るが、具体的な統廃合となれば、地域の方々に丁寧に説明をし、時間をかけながら行っていく。

（加藤教育長） 「統廃合の検討対象校」として学校名があがると、学校に不安をあたえるため、進め方は慎重にしてほしい。

（内藤委員） 子育ての駅市民防災センターにできるキッチンユニットは、どのくらいの大きさか。

（矢沢子ども家庭課長） できるだけ大きくという夢はあったが、広さが400㎡しかなく、受付カウンターがキッチンユニットになるものである。常時あるわけではないが、デモ的に使うようになる。小グループが対象。大勢の時には、健康センターやコミセンもあるので、そちらを利用することになる。

（内藤委員） 小さいものでも、囲みながら質問しやすいのでいいと思う。母子保健推進員や食育推進員をぜひ活用してほしい。

(中村委員) お誕生日訪問事業について非常に素晴らしいものである。母子保健推進員として妊婦訪問や赤ちゃん訪問も行っているが、地域のサークル活動など、実際にあって話をするだけで誘いやすくなる。歯科検診については、妊婦にはありがたい事業。時間がなくていけないことが多いが、制度を確立してもらおうとありがたい。最後に、まちなかキャンパスや高校・大学・専門学校と連携してとあるが、具体的にどのようなふれあいがあるのか。

(矢沢子ども家庭課長) 現在てくてくも、大学生にサポーターとしてきてもらい、遊具ふきなどをしてもらっている。ちびっこ広場のおまつりにも技大生のボランティアサークルが来てくれている。それを日常的につなげていくために、新しいちびっこ広場のビルと渡り廊下でつながっているまちなかキャンパスに来る若者に絵本館で読み聞かせを行ってもらおうことを考えている。若者に実際に赤ちゃんのお世話のお手伝いをしてもらうなど、次世代育成も考えている。まちなかなので、高校生など若者が来やすい環境である。

(内藤委員) 宮内中学校について、住民参加の意見交換の場はあるのか。

(押見教育総務課長) 19年度後半、及び20年度で検討委員会を設置し、学校、地域代表、学区の各小学校のPTA等10名で進め方について検討をしてきた。その結果を学校建築に生かしてく。なお先般、地域には、検討委員会の結果を報告し、町内会長などに説明を行った。

(加藤教育長) 東中学校ではじめたワーキング方式は継続している。同じ長岡市内でも2ヶ所で行うと、地元住民の方の意識が違うことがよくわかった。教育委員会として隣接する宮内保育園を抱き込んだ大きな施設を作りたいと考えたが、実施できなかった。保育実習にも行っている中学生と保育園ならうまくいくと考えたのだが、いろいろな心配があり断念した。

(内藤委員) 建物は離れていても、交流を行う形をとればよいのではないか。

(加藤教育長) 宮内中学校は校内にプールを設置する。先日、東中学校長から大変いいことを言われたのでお伝えする。東中学校はプールを設置せず、移送してダイエーフェニックスプールで授業を行っている。内心心配をしていたが、校長から、授業では続けても2時限で、なかなか徹底した指導ができないことが多いが、ダイエープールでは十分時間をかけ、泳力別の指導ができ、泳げない子には体育科教師が当たり、

泳げるようになって、生徒も大変よろこんでいたと聞いた。季節種目は時間をかけてすることで上達する。それから、子ども家庭課のお誕生日訪問については、母子保健推進員の経費が若干あるだけである。事業費はごくわずかだが、大きな効果がある。若い母親が安心できる。事業費は少なく、大きな効果がでることは、教育委員会の特色である。教育の観点から事業を見ることができるからである。

（大橋委員長） 他に質疑、意見がないようなので、次の4所属分について、事務局の説明を求める。

（若月保育課長） まず、保育所建設事業である。保育所は建物が老朽化しているものも多くある。来迎寺保育園については、平成20年度の耐震化優先調査を行い、優先度も高かったものである。今年度耐震診断の予算要求を行ったが、財政当局から耐震診断は行わずに、順次条件の整ったところから改築をすべきとのことであった。来迎寺保育園については、隣接地の市有地に移転改築ができそうなため、22年度に実施設計等を行い、24年度には新しいところで開園をする予定である。次に、白山保育園についてであるが、先ほどの説明のとおり移転改築を行うものである。22年度に土地購入、基本設計等を行い、25年度には引越し、開園予定である。2番目に認定こども園整備推進事業である。認定こども園という制度ができたが、長岡市では進んでいない。私立幼稚園では希望があり、太陽幼稚園が21年度から、和光幼稚園が22年度から始めたいとして準備を進めており認定を予定している。長岡市の中心部では未満児を受け入れる施設が少ないため、その部分を整備するためにも整備を進めたい。3番目は熱中！感動！夢づくり事業の保育課分である。今までは小学生以上しかなかった。保育園、幼稚園に行っている子どもたちにも何かできないかと始めるものである。ひとつは、園児の交流モデル事業である。できれば全市の子どもたちを集めてできるといいが、まずは中学校区の中でモデル地区を指定し事業を行う。もうひとつは、幼児家庭教育講座である。保育園、幼稚園で保護者の家庭に対して何か語りかけをしたいと始めるものである。いずれは、就学時等家庭教育講座の手前の段階として考えている。

（小野田中央図書館長） まず、子ども読書活動推進計画策定事業である。長岡市の子ども読書環境整備に向けた計画を作りたいものである。「子ども読書活動推進に関する法律」に基づき、国では市町村の推進計画の策定率を50%にすることが閣議決

定されている。新潟県では第2次計画ができています。県内でもいくつかの市が策定をしているが、長岡市でも総合的に子どもの読書活動推進をしていきたい。策定委員会を設置し、2年間かけて実態調査を行いながら策定をしていく。2点目は互尊文庫関係である。互尊文庫はすでに築42年を経過している。故障が出るとつぎはぎ的に直しており、いつ互尊文庫が営業できなくなるかわからない状況である。建築住宅課からも耐震診断をやるよう指示もあり、耐震診断をし、引き続き使用が可能であればきちんと活用できるよう計画したい。建物自体は図書館であるため、かなりしっかりしているため、耐震に関して把握していきたい。3点目は文書館整備事業である。文書資料室には、古文書、公文書の歴史的な文書が大変たくさん整備されている。古文書もそうだが、公文書の歴史的資料は今年の6月に公文書管理法ができ、保存年限の過ぎた廃棄される資料もきちんと後世に残していかなければならないこととなった。長岡の「文書館」を整備するにあたりどのような機能、設備が必要か、検討委員会を立ち上げ2年間で検討を行う。

(山屋科学博物館長) 1番から4番は開発に関わる行政発掘調査である。長岡、寺泊、和島地域での発掘を行い、記録保存を行うものである。5番目について蔵王堂城跡環境整備事業である。これは、市指定史跡である蔵王堂の堀の水質が悪くなり、堀が埋まりつつあるため、環境を改善するものである。続いて、緊急雇用創出事業である。人件費のウエイトが大きい事業がこれに当たるが、地域資料館の資料の整備、データベース化について活用していく。7番目、郷土史料館環境整備事業であるが、郷土史料館が昭和42年に建築され、かなり老朽化してきている。古くなった空調設備の入れ替えを行うとともに、建物の耐震診断を行うものである。8番目、総合調査及び地域資料館連携事業費である。長岡地域については、学芸員総動員で総合調査を行ってきたが、合併地域ではまだ行っていないため、これから事業に定め調査を行い、併せて地域資料館の活用を図るものである。

(山岸教育センター所長) 空調設備等改修事業である。教育センターは、平成元年に供用開始され、20年以上経過し、空調設備が劣化し機能低下を起こしている。そのため、冷温水発生機改修工事及び中央監視システム改修工事他設計委託を行うものである。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(大橋委員長) 蔵王堂は金峯神社のうしろの場所か。

(山屋科学博物館長) そうである。ヘドロをとり、井戸を掘って水を流し、環境を整備したいものである。

(大橋委員長) 中央図書館の読書普及推進事業について、大変大事なこと。学校教育課との関わりもあると思うが、小・中学校における読書普及活動や、県からも学校図書を増冊や普及活動推進等数年前からあると思うが、長岡市は継続できていない。関係課と一体となり進めてほしい。

(小野田中央図書館長) 図書館だけで行うわけではなく、学校教育課、保育課、子ども家庭課等関係セクションとあわせて行う。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) なしと認める。他に協議報告事項はないか。

(若月保育課長) 追加の報告をする。長岡市保育所施設整備事業補助金交付要綱の一部改正を行った。8月定例会において補正要求の審議をしていただき、9月議会で承認されたもので、新潟県の安心こども基金を活用して、保育園の施設整備が行えるようになった。その安心こども基金を市から私立保育園へ交付できるように、要綱を改正した。内容は、私立保育園が基金を利用して施設整備を行う際の補助金の額を加えたものである。補助率は国が2分の1、県と市は、4分の1を負担。国の補助金を、市を通して支払うため、市から交付される金額は全体の4分の3となり、その範囲内で交付できるようにしたものである。10月27日付で施行し、今年度はみしま中央保育園に適用される。この要綱は、教育委員会要綱ではなく、長岡市の要綱となるため、今回の報告事項とした。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。他に協議報告事項はないか。

(武樋学務課長) 1件情報提供を行う。本日、桂小学校において給食感謝試食会が開催された。これは11月から農林水産省の補助金により家庭用の炊飯器を使用しごはんを炊く事業で、農協が炊飯器を購入し、市へ無償で貸与するもので、炊きたてのごはんを食べ、残飯をなくすための事業である。今年、桂小学校、下川西小学校、

太田小中学校で導入をした。そのアピールも含め桂小学校で試食会を行ったものである。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。他に協議報告事項はないか。

(大橋委員長) これをもって協議報告事項を終了する。

---

(大橋委員長) 本日は、定例会の前に柿小学校と竹沢保育園を訪問した。訪問について、委員の皆さんの意見、感想はいかがか。

(中村委員) 最初は柿小学校を訪問した。3年生の体育の授業を見学したが、活発であった。ポートボールをしていたが、女の子も積極的にキャッチしていて、運動が発達しているように感じた。学校の取り組みとして「知・徳・体」があり、目標を決めてやっているということで、動きを見て感じた。柿小学校は、高町団地の子どもも多いと思うが、斜面を登下校していることから、体力をつけているのかと感じた。授業風景は、児童が減り各学年1クラスということにおどろいたが、低学年がすごく元気だった。声を出しながら授業をしていて、気持ちよかった。高学年は落ち着いていた。自立活動のあおぞら教室があり、知的障害児の通級と聞いたが、各自一生懸命やっている姿があった。担当している先生に話を聞くと、普通教室で行う音楽などの授業も好きだし、この教室も好きで、のびのびと楽しくやっているようでよかった。竹沢保育園について、私は山古志に縁があり種芋原にはよく来ていた。保育園は高台にあり、絶景でいい環境だったが、冬場は少し大変だと思った。少人数だが、年齢関係なく活動していた。この園のメンバーが小学校、中学校とあがり、同じメンバーということが少し心配との事だった。少人数なため、とても落ち着いていた。

(内藤委員) 柿地区は、平成16年の中越大震災で傷ついた場所だったため、子どもたちの様子が気になった。当時の1年生が6年生になり、幼児であった子が低学年、中学年になっており、どのような状況か、久しぶりに訪ねることができた。みんな、元気よくあいさつし、高学年はきちんとした姿で授業をしている姿が印象的であった。校長は地震後の赴任のため直後の様子はわからないとのことであったが、当時を知っている先生から地震後も落ち着いた授業態度で、子どもたちが非常にながらんでいた

と聞くことができた。地震後はこの学校もだめかと思うほどであったが、1人も欠けることなく全員戻って来て非常に喜んでいて。最近、薬物について話題になり、学校での取り組みも気になっていたため、薬物防止教育について話を聞いた。6年生のクラスには薬物のサンプルがあり、地域振興局から借りてきたとの事であった。世の中の動きがあるたびに、子どもたちと一緒にテーマを決めて話をしているとのことで、現代の社会を捉えた授業をしている先生だと感心した。竹沢保育園は、少人数の中で、先生方のがんばりを感じた。小・中学校が遠くてなかなか交流が難しいとのことであった。先生方だけでも長岡地域の先生と交流ができたらと感じたが、保育課が園全体の交流を考えているとのことであったので、ぜひ交流ができるよう進めてほしい。子どもたちは非常に明るく、元気がよく、安心した。

(大橋委員長) 柿小学校の重点目標は、「学力・体力・社会性の向上」であった。これは、教職員等スタッフが充実しているのと、力をつけている印象を持った。非常にすばらしい学校だと思った。最後に学校の前に山通保育園があり、もっと何か特色ある学校づくりをしてほしいと感じた。内藤委員も保育園と小学校の交流をもっと大事にしたらどうかとの思いが強くなるようであった。校長の話の中で、旭岡中との交流は増えているとのことだが、保育園の話はでてこなかったし、交流もしていないようであった。今後、特色のある教育を展開してほしい。保育園との交流もつながれば、地域力の向上、学校、家庭の交流ももっとすばらしいものになるだろう。子どもたちは力があり、答えを出すだけでなく、答えを導きだす手立てを学ぶことに力をいれていた。解決策を探りながらの授業は感心した。竹沢保育園は、初めて行ったが、すばらしい景色で驚いた。送迎1時間で2回廻るそうだが、その間待機している先生も大変だろうと感じた。子どもたちががんばっているのは先生のおかげだと感じた。園の中にいるとすごしやすい環境だが、外に出ると厳しい環境であると実感した。

(大橋委員長) 他に意見、質問はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) これをもって本日の定例会を終了する。

---



会議の次第を記載し、その相違ないことを証するために署名する。

長岡市教育委員会委員長

長岡市教育委員会委員

長岡市教育委員会委員